

共感と気まぐれの贈与  
—クラウドファンディングにおける「交換の枠組み」と  
「アナキズム的可能性」—

社会学部現代社会学科 1722040

指導教員 川瀬由高

氏名 三枝哲也

要旨

交換には二つの種類が存在する。一つはお会計などの即時に等量のお返しを求められる市場交換、もう一つは誕生日プレゼントなどの間隔を空けてのお返しが求められる贈与交換である。クラウドファンディングはプロジェクトを支援する際に「応援購入」という言葉が用いられることがある。市場交換的な「購入」と贈与交換的な「応援」が結びついたこの言葉は、いったいどちらの「交換の枠組み」に属するのだろうか。

本研究は筆者が実際に応援購入をしたプロジェクトをもとに、クラウドファンディングを経済人類学における「交換の枠組み」概念を用いて捉え、それぞれの交換の特徴からあふれ出す要素を、アイドルやスポーツファンによる「応援」、日本における寄付文化などと比較し、クラウドファンディングにおける上からの命令にとられない、個々人の自由なコミュニケーションから生まれるアナキズム的可能性を考察するものである。

序論では、人類学における交換概念とクラウドファンディングを簡単に説明し、本研究におけるキーワードである「交換の枠組み」概念と「アナキズム」の定義の概略を確認する。また、本稿の先行研究や研究手法についても言及する。

第一章では、クラウドファンディングの歴史を確認し、プロジェクトの実行形式の特徴や類型などを説明する。また、日本におけるクラウドファンディングの成功事例と失敗事例を紹介し、クラウドファンディングのメリット・デメリットを確認する。

第二章では、筆者が応援購入をした購入型プロジェクトをもとに、クラウドファンディングにおける「応援購入」と、アイドルファンの自分とアイドルを親しい存在としてみなすための実践としての「応援」などを比較検討し、応援購入の自己利益的な応援を通して自身のアイデンティティの充足が得られるという特徴を示す。

第三章では、筆者が応援購入をした寄付型プロジェクトをもとに、日本の寄付文化などについて比較検討し、市場交換的側面からあふれ出す贈与的側面を是とする、既存の市場経済の代替手段になりえるクラウドファンディングの枠組みを提示する。

第四章では、クラウドファンディングと類似した構造をもつ「頼母子講」などを事例に、上からの命令ではなく、プロジェクトに参加した一人ひとりの応援購入から成る、必要な場所に必要なものを作り出すクラウドファンディングが内包する、アナキズム的可能性について考察する。

結論では、筆者の体験したプロジェクト二種の特徴に触れ、クラウドファンディングの市場交換を通じた贈与交換という特徴をもとに、地縁・血縁とも異なるインターネットによってつながる「情縁」によるクラウドファンディングのアナキズム的可能性を提示する。